

樹里安だより

2000年
1月
Vol. 6



..... 安行八景 (その一)

「安行氷川神社」

すきのおのみこと まつ
素戔鳴尊を祀っており、不動の像も安置されている。境内に杉の大木のある静かな神社で、近くには猿貝貝塚もある。古代の息吹の残る地である。お社近くにひっそり咲くサザンカがやさしく迎えてくれた。

タブノキ

木村 四郎

今日はタブノキ訪問である。イヌグスとも言い、クスノキ科の常緑高木である。

イチョウヤケヤキが圧倒的に多い中で、指定タブノキは3本だけである。木曾呂の石井氏宅と戸塚の西光院境内にあり、ともに堂々たる大樹である。もともとのあたりの土地にも適した樹種と思われ、隣の越谷には天然記念物になっているのが2本ある。大聖寺境内のものと、越谷小学校裏のもので、時代の古さを物語る樹格を備えている。

万葉集に大伴家持のうたがある。

磯の上の ^{つまま}都万麻を見れば ^は根を延へて
年深からし 神さびにけり

巻19-4159

つままとはタブノキのことである。その古木に神さびたものを感じたものであろうか。

さて、今回の所在地は赤井地区の松本氏宅の敷地内で、バス通り側である。遠くから近づくにつれて“ああ、あれかな”と思わせる照葉樹が目についてくる。手前のクスノキの街路樹を遥かに飛び越してそびえてる。つやつやとした葉は、夕日に映えて風にそよいでいる。鳩ヶ谷台地の裾を為すこのあたりの低地帯に、ひとり



(赤井3-1-25 松本吉長氏宅)



(木曾呂239 石井忠男氏宅)

葉を茂らせる孤高の中木である。一抱えほどの若木であるが、すくすくと育っているようだ。幹も素直に伸び、途中あまり疵もない。

松本氏にお話を伺う。このあたり区画整理があったのは15~16年前のこと。そのころは「ヤマ」即ち屋敷林をなしていてムクヤケヤキその他たくさん生えていた。ほとんど伐採してしまったが、記念の意味もこめて一本だけ残したのがこの木である。

その時は、木の名前も判らなかったが、ともかく1mぐらゐの太さはあった。その時、地面を約2尺(60cm)ほど盛土したが、この木もそのまま根本に2尺の土をかぶせてしまった。新しくかぶせた土の面からまた、根が出て現在みるような立派な根張りになっている。おもてからは見えなかったが、東側の家屋に面した地上2mほどの所に枯れ芯とも思える大きな疵があるが、整理するおりにブルドーザーでひっかいた跡だという。

ともあれ、まわりの木がなくなり、自由に伸びられるようになったので、あの当時よりは2倍ぐらゐに成っていると思う。と慈しむような目でタブノキを見上げながら語ってくれた。

現在、幹周りおよそ1.8m、高さ1.8mだがのびのびと枝葉を伸ばして育っている。これからが楽しみな樹である。

冬の日の残照を受けたタブノキのはるか向こうに、氷川神社の森が暮れなずむ夕もやに没しようとしている。

北窓を開ければ一樹 ひろびると



仏教三大聖樹

世界では、特別な植物をグループに分け、様々な呼び名で表現し、親しまれている。

インド三大有用樹（ヒマラヤスギ・チーク・サラノキ）、三大有用竹（モウソウチク・マダケ・ハチク）、世界三公園樹木（ヒマラヤスギ・ナンヨウスギ・コウヤマキ）、仏教三大聖樹（ムユウジュ・インドボダイジュ・サラノキ）など枚挙にいとまがない。思い当たるふしもあり、また、なんとと思われる人もあるかもしれない。第5号でとりあげた熱帯三大果樹（ドリアン・マンゴスチン・マンゴ）もその一例である。今回は、お釈迦様にまつわる仏教三大聖樹のお話です。

★ ムユウジュ *Saraca asoca*
アショカノキ（無憂樹） マメ科

釈迦がルンビニー園のこの木の下で、摩耶夫人の腋の下から出生したという伝説で有名な木である。

古代インド文学では、瑞兆をあらわすものとして、しばしば登場する。

インド、スリランカ、ビルマに分布する。



ムユウジュ

★ インドボダイジュ *Ficus religiosa*
（印度菩提樹） クワ科

釈迦がその木の下で悟りを開いたと言われる。常緑の大高木でインド、スリランカに分布する。インドボダイジュは熱帯植物で、仏教の伝来した中国では育たないので、葉の形が似ているシナノキ科のボダイジュが代わりに寺院で栽培されるようになった。



インドボダイジュ



サラノキ

★ サラノキ *Shorea robusta*
（娑羅双樹） フタバガキ科

平家物語の冒頭を中学校で一生懸命暗記したという人も多いことでしょう。「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり、娑羅双樹の花の色、盛者必衰の理を顕す」で有名な娑羅双樹である。花色は淡黄緑色。日本では冬、露地で育たず、葉が似ているナツツバキ（別名シャラノキ）を代用として寺院に植えられた。釈迦の入滅に際し、その四方に2本ずつ生えていた8本のシャラノキの内、各対のそれぞれ1本が枯れたといい、これを四枯四榮という。また、入滅にあたり、これら8本が白く変わったともいい、釈迦入滅の地を白鶴の色にたとえて鶴林と呼ぶ。インド原産である。

思い立ったが吉日！ 庭仕事や鉢替えや種蒔き等、園芸作業は後先かまわず、ついつい始めた時が適期とばかりに心はやり、結局は失敗してしまったという経験の持ち主は案外多いのではないのでしょうか。植え付け・施肥・整枝剪定などの管理について少しでも身につけると物言わぬ植物も喜ぶことでしょう。

🌱 [植え付け]

1. 時期

緑化樹には、1年中、葉のある常緑樹と、冬は葉の落ちてしまう落葉樹とがあり、それぞれ植え付けに適した時期が異なる。

(1) (常緑樹)

広葉：	新芽の出始める時期	4月上旬
	新芽の成長が止まる時期	6～7月・9月上旬
針葉：	新芽の出始める時期	3～4月上旬

(2) (落葉樹)

葉が落ちてから厳寒期を除いて新芽の出る前迄の時期。

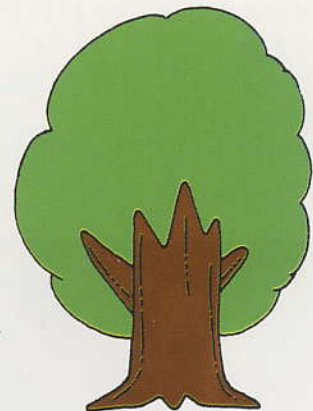
2. 植える植木の扱い方

(1) (植木の選び方)

- ・根鉢がくずれていない。
- ・根鉢が乾きすぎていない。
- ・葉や枝がしおれていない。
- ・幹や葉に傷がない。
- ・幹や根が病気や虫に侵されていない。

(2) (移植をする時)

- ・植え付けの適期に掘って、すぐ植えられるようにする。
- ・掘り取る場合の根鉢の大きさ。
 - *常緑樹……地ぎわの幹径の4～5倍。
 - *落葉樹……大きいものは、常緑樹同様。
- ・小さいものは、根鉢はつけない。(堀取る根の長さは、幹径の10倍位)
- ・切られた根の先端部……鋭利な刃物(鋏・ナイフ)で、割れたりつぶれたりした根を切り取る。
- ・根鉢は乾かさない。
- ・枝は1/3位を枝の分かれめから切り落として少なくする。



3. 植え穴

- (1) 根鉢または根が入る余裕のある大きさの穴を掘る……大きめに掘る。
- (2) 深さは鉢の高さと同じぐらいが標準……深めに掘って土を埋め戻しながら深さを調整する。
- (3) 粘土質……砂や良土を混ぜる。
- (4) 砂利混じり……石を取り除くか良土を入れる。

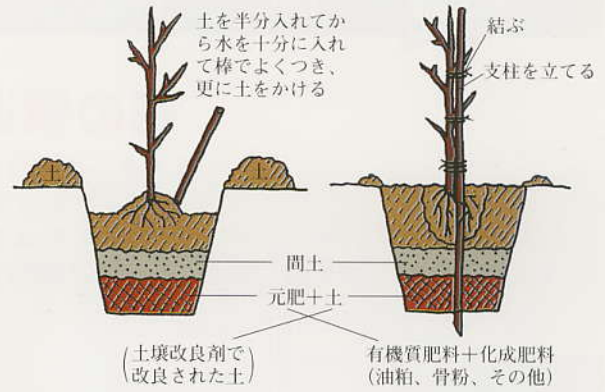
4. 植え付け方法

- (1) 植え穴の底は、柔らかくするか客土を入れて植え付ける植木の根鉢の上面が、地表と平らになる程度の深さとする。
- (2) 植木は植え穴の中央に垂直に置く。
- (3) 根のまわりに、砕いておいた客土を八分目程度入れる。
- (4) 水を客土の上面まで入れる。
- (5) 小さい苗木は、左右上下に丁寧にゆする
大きいものは、竹や棒で客土が根鉢に密着するように突き入れてドロドロ状にする。
- (6) 水が引いたら客土または堀上げた土を埋め戻し、地表と平らになるようにして軽く踏み固めておく。

* 植えたばかりの根鉢に、水が入りにくいと、根鉢が乾きやすく新しい根が出にくい。埋め戻した客土と根鉢に隙間のないように植えること。

第1図 苗木の植え方

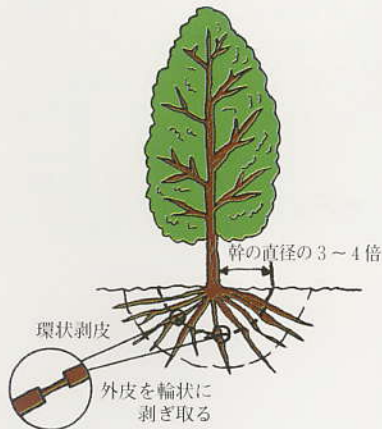
第2図 支柱の立て方



第3図 小さな苗木の保護



第1図 根回しのやり方



第2図 移植時の枝葉の整理



第3図 移植時の幹の保護



第4図 庭木の植え付け方

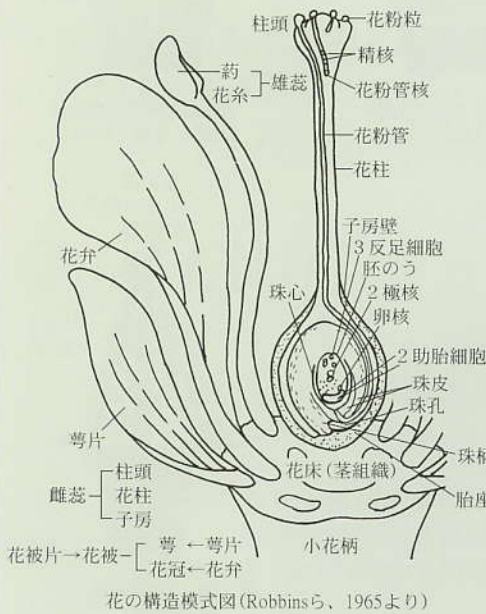


* 支柱 (添え木) ……木が倒れないようにするばかりでなく、植えたばかりの木が動かないようにすると活着 (根付き) 効果が大である。幹が、風で揺れたり、人がすれたりすると、根鉢まで動き、せっかく発根してきた根が切れたり、根が出にくくなる。



花の構造と花の形

植物を楽しむ時、花を觀賞するのが圧倒的に多い。それらの花も、元は葉や茎が進化したのだという。なかには葉が色付いていかにも花のようにみえたり萼が発達して花のように見えたり、雄蕊が弁化したたり、一口に花といっても様々である。



花の構造模式図 (Robbinsら、1965より)



バラ形 (例 ノイバラなど)



舌状形 (例 ハマギクなど)



筒形 (例 キリなど)



蝶形 (例 フジなど)



高盆形 (例 クサギなど)



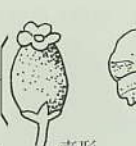
唇形 (例 スイカズラなど)



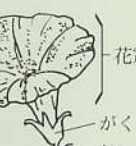
車形 (例 ゴマキなど)



鐘形 (例 サラサドウダンなど)



壺形 (例 ドウダン、ツツジなど)



漏斗形 (例 アサガオなど)

花の形 (牧野日本植物図鑑より抜粋)

花弁 (カベン) 茎・葉などが変形したもの。萼の内側に、輪になって着き、一般にこれがよく発達して美しく着色する。

萼片 (ガクヘン) 花の一番外または下にあつて、普通は緑色をしている。花弁の寿命は短い、萼片の寿命は長いのが普通である。萼片がまるで花弁のように美しい植物もある。(ハナミズキ・ハナショウブ)

雌蕊 (シズイ) 柱頭・花柱・子房の三つからできている。花の中心にある女性の生殖器官。先端の花粉がつく部分を柱頭、後に果実になる下端の部分を子房といい、その中間部を花柱という。

雄蕊 (ユウスイ) 花の内側にある男性の生殖器官。細長い花糸とその先端にある葯からなる。葯の中に花粉がある。

子房 (シボウ) 雌蕊の基部にある。子房壁・珠皮・胎座・胚珠で構成されている袋状のもので後に発達して果実になる。胚珠は、中に卵細胞その他の生殖細胞を含む。受精したのちに発達して種子になる。



川口緑化センターの主なイベント報告

♣ 来場者 200 万人目記念式典

平成11年7月17日、200万人目のお客さまをお迎えしました。折しも、その日は、「樹里安夏まつり」の初日で暑いさなかでした。川口緑化センター（愛称「樹里安」・道の駅「川口あんぎょう」）は、平成8年4月オープンしました。緑の発信基地として、各種の講習会や緑化展示会を計画しています。皆様のご来場をお待ちしています。

♣ 第48回春の安行植木まつり

4月17日(土)～18日(日)

♣ 第49回秋の安行植木まつり

10月9日(土)～11日(月)

植木の里、安行をPRし、植木・花・造園など特産農業の振興、緑化知識の普及を図りました。また、秋の植木まつりでは、園芸ゼミナールの一環としてミニ庭園の作成実演を行いました。



♣ 緑のまちづくり市民運動「緑と庭園の写真展」

7月17日(土)～8月1日(日)

緑のまちづくり市民運動の一環として、植木、花、庭園と市内の緑の風景の写真を募集し、入賞作品60点をアトリウム内に展示。来場者への緑化意識の高揚と普及啓発を図った。



♣ 緑のまちづくり市民運動「ミニ庭園作成コンテスト」

10月3日(日)～11日(月)

緑のまちづくり市民運動の一環として、市民より公募し、ミニ庭園14点を作成し、展示した。また、センター内の4緑化団体にもミニモデル庭園を展示協力して戴き、来場者への緑化意識の高揚を図った。



♣ 全国「道の駅」施設紹介

8月10日(土)～22日(日)

全国の「道の駅」を各地域別に紹介し、埼玉特集として県内「道の駅」を写真やパンフレット等で紹介。

♣ 緑の学会

9月19日(日)

北野大氏を講師に迎え、「生活と緑」についての講義を受け、参加者の緑化啓発を図った。



緑花アラカルト

枝物の種類

- 1 花の咲くときに出荷される枝物。
- 2 花の咲かない枝物。
- 3 花の咲くときもよし、
葉のときにも出荷できる枝物。



枝物の実用的分類

分類		主な種類
青物	針葉樹	シノブヒバ・クジャクヒバ・チョウセンマキ・キャラボク・ヒムロスギ ソナレ・エンコウスギ・イブキ・ゴヨウマツ
	広葉樹	ベッコウマサキ・イワナンテン・キソケイ
芽物・芽吹き物		キンバコデマリ・キイチゴ・ウンリュウヤナギ・フイリガクアジサイ ホオノキ・アカメヤナギ
葉物	若葉	ユキヤナギ・アブラツツジ・葉レンギョウ・フイリイボタ ベニマンサク・イタヤカエデ
	紅葉	ユキヤナギ・コデマリ・ニシキギ・ドウダンツツジ・ベニマンサク ベニキリシマツツジ・ベニスモモ
花物	落葉樹	ウメ・モモ・サクラ・ヒュウガミズキ・トサミズキ・ハクモクレン ロウバイ・サンシュユ・マンサク・レンギョウ・ユキヤナギ・コデマリ ボケ・リンショウバイ・ハナスオウ・バイカウツギ・ピヨウヤナギ チンシバイ
	常緑樹	ツバキ・サザンカ・ベニキリシマツツジ・タナシツツジ・シャクナゲ チャ・ジンチョウゲ・タイサンボク
石化物		セッカヤナギ・セッカエニシダ・セッカアジサイ・セッカスギ
実物		ウメモドキ・ツルウメモドキ・ニホンナンテン・センリョウ ヤブサンザシ・コムラサキシキブ
暖地花木		アカシア類・ユーカリ・エリカ・キンボウジュ・ギンコウバイ センリョウ
加工物(漂白・染色)		ミツマタ・シダレヤナギ・シダレグワ
木物		苔松・苔梅



発行日
平成12年1月1日
発行

財団法人 川口緑化センター
〒334-0058 川口市安行領家844-2
TEL.048-296-4021
道の駅「川口・あんぎょう」

ホームページ <http://www.sainet.or.jp/~jurian>